

KK通信

第一五号

昭和28年12月1日発行(毎月1日1回発行)
昭和28年4月17日第3種郵便物認可
発行所 堺局区内菅原通4ノ30曙書房
定価 一部 20円

(編集部便り)

○奇譚クラブの愛読者を中心にした特別会員の機関誌は好評裡に日を追うて激増の一途を辿っております。なにしろ六カ月送共百円という安価な誌代で犠牲的に努力を続けておりますが、こういったパンフレット式のものはその作成に労多き割に報いられるところ少なく、現になんでもかんでも小誌の真似をしてる或る誌の如きは堂々とXX通信と広告しておき乍ら棒を折つています。実際二百や三百の会員が集つても紙代どころか印刷の組版代も出ないのです。又、一般書店に出さないからすべて直送に依るため、事務だつて馬鹿にならないのです。

本KK通信に対しては誌代はもつと増額してもいゝから増直をとの意見もありますが、本通信の発足以来一年有余、目下その基礎建設時代と考えて着々と足場固めを致しております。がつちりと基礎を固めた時は必ずや、会員の皆様に驚嘆して頂けるプランを発表します。何はともあれ、現在は毎号確

実に皆様のお手元へ、さゝやかながら心の便りをお届けするのを第一目的といたしております。

KK通信第十四号が印刷の都合で本誌の発売より多少遅れまして、多数の方々から督促を頂きました事は誠に申し訳なく厚くお詫びいたします。本号も十月上旬の予定がいさゝか遅れました点悪しからず御諒承下さい。

○臨時増刊号「アリスの人生学校」定価百円は既に口繪、挿繪も出来上り印刷に着手いたしましたので、予定の十二月上旬よりは早く完成するかも知れません。既に予約申込や御照会を多数頂いておりますが、本誌予約購読者の方々へは御指示なくとも自動的に発送申し上げます。但し臨時増刊号の分として別送下さつた方々には本誌予約金はそのままにして御送付致します。

○本誌の発行部数の漸増に伴い、十二月号は本文十六頁の増頁を行いました。今後、掲載原稿の輻輳と共に更に内容の充実を計る考えであります。

○従来、愛読者の皆様から熱意ある真面目な御進言を多数頂き、その都度誌

面に反映いたして参りましたが、今後共、こういった編集をしてほしいといった御希望がございましたらドシシお寄せ下さいませ。

○今迄御送稿頂きました多数の告白手記の中で未発表の分も、目下編集部に於いて検討中でありまして、新年号以降の誌上に颯爽とデビューすることと思ひます。

営業部便り

○本誌並にKK通信の前金切の節は封筒の表に(前金切)の印を押して、それにて御通知にかえます。継続にて御支払込の際も必ず、何月号より或は第何号よりと御記入願ひます。

○未着御照会の際は御送金日、送金方法、注文品目等出来るだけ詳細御記入下されば早速調査の上御返事申し上げます。

KK通信

第15号

昭和廿八年十二月一日発行(毎月一回一日発行)
発行人 吉田 稔 編集人 箕田 京二
発行所 大阪府堺局区内菅原通四ノ三〇 曙書房
定価 二十円 (振替口座大阪三四九五六番)

短信往来

○会員の激増並に取扱品目の増加に伴つて通信の事務は益々繁雑を加えておりますが、事務担当者の努力により帳簿の整備を完了、不着事故は殆ど皆無に近くなりました。

○確実と迅速をモットーとして信用を得て参りました営業部としましては更に皆様の御期待に副うべく研究いたして居りますが、お気づきの点は何卒御進言下さるようお願いいたします。

○本誌新年号のワイセツ文書の容疑は疑い晴れて不起訴となりました。

○マゾヒスティクな境地について、の座談会は熱心なる出席希望者の多数のお申込みを頂きましたので、近日中染田玄氏司会の下に開催する予定です。

KK通信第十一号のKK論壇で花尻氏が「サディストとマゾヒスト」という

題で書いていられることについて一言私見を述べてみたい。先ずこの一文を読んで氏の御意見には原則として賛意を表したい。乏しい乍ら両者の体験を有する私には今迄意識しなかつた盲点を適切に指摘された感じであるが、にも拘らず私が一言したい点が一つある。羽村京子さんも七月号に信太蒼子さんへの一文に「臨月近

KK論壇

我が倒錯性

佐久良栄一

い妊婦やふつくとセーターの胸が盛り上つた肉づきのよい可愛い女学生などを見るとサジスチックな血がわくが、私はどちらかといへば明らかにマゾヒストに違いない」と告白されている。私自身も女性的な若い男を行きずりに見かけると思わず願つて「この男を思いきり責めてみたい」という欲望にかりたられるかと思ふと、逆に美しい女性を見ると「この人の脚に踏まれて、あの白い手で握つた鞭で氣を失うまで打たれたい」と思ふずにはいられない。そし

てそんな時には必ず過ぎ去つた日がつかしく思ひ出されてならない。一体私はマゾヒストなのか、サディストなのか、と考える事も再三でなかつた。サドとマゾは表と裏、表裏は一体なのだからそれでいいのだ。と自身に云い聞かせているが、然し私がマゾに憧れ、サドに走りたいと思うのは氏の云われる如く「女は腕力では男に敵わないからどうかして他の方法で

かもしれない。

だが人間の心の動き、感情の閃めきは理窟一点張りでも割り切れるものではない。若し両者の全部が氏の説の通りとすれば、京子さんの如く、或は獄君の如く、又私の様に(私の場合はまだ体験談を発表していないので諸兄にはお判りにならないが)同性に対してのサディズムもマゾヒズムも否定しなければならぬ(尤も氏はそれが全部であるとは断言していないが)マゾにはマゾでなければ、サドにはサドでなければ味う事の出来ないものがあり、

それが各個人の個性の相違によつて、夫々の感情的条件を伴つて、或は同性に又は異性に、時にはサディズム的行動として現れ、時にはマゾヒズム的行動として表れるのではないかと愚考する。

今後会友諸兄との文通や交際によつてサディズム的な立場から或はマゾヒズム的立場から懇談して、更に私の持説を確めてゆきたいと思う。

或る富豪の告白

マゾヒスト誕生 (五)

峰村佐吉



今迄元華族の令嬢で気品の高い若夫人であつた津矢子は、この日から私にとつては一つの玩弄物になり下つてしまつたのです。私の純情を裏切り、夫に煮湯を飲ました女として当然受けるべき待遇だつたのです。私はそれだけの理由で彼女を離婚することは出来ましたが、正直なところ私自身の体面上新婚早々そういった手荒なことも世間

体から云つて出来ませんでしたし、それともう一つ正直なところ彼女の肉体的なものについて私の強い執着があつたのです。

彼女の心が私に向いているかどうかそれはわかりませんでした。或は私の社会的地位や経済的な実力に眩惑されていや／＼眼をつぶつて嫁いできたのかもしれない。然し現在の私にとつ

ては彼女の心を掴もう等とは思いませんでした。高価な代償を払つたこの美しい玩弄物を妻という名の桎梏の下に縛りつけて如何に凌辱し教育してやろうかという点に興味がありました。けれどもそれは単なる復讐といった気持ちではなかつたのです。そこには多分にセクシュアルなものが含まれていました。私の性格的な弱点がこういったシヨックによつて表面に表れてきたといつていいでしょう。

若し他の第三者が私達夫婦のことを表面から眺めていたとしたら、誰一人こういった精神的な内面生活について想像することも出来なかつたでしょう。巨万の富と美しき妻、人々は羨望の眼を以て私を見るに違ひないのです。相変らず私の支配下の諸々の会社は順調な経営状態を続け、全財産の中、六割を堅実なる事業形体の会社に注ぎ、投機的ないわば儲けは多いが危険性のある事業には腹身の部下を責任者に据えてのこりの四割の資金を運転して相当な荒稼ぎをやりました。そういった儲けのお陰で本筋の会社経営も金融難に

陥ることもなく、他の競争相手の社を圧倒して繁栄してゆきました。

事業の経営が大磐石の安きに置かれてみると復讐以来あれ程情熱を傾けた熱意が次第に冷めて、うとましくさへなつてきました。専ら部下まかせにして、特に困難な問題以外は直接手を下さなくなりましたが、忠実な部下達は私の信頼を裏切るようなことはありませんでした。勤勉から怠惰へ、晩寝早起から早晩晩起へと私の生活態度は急激に変化してゆきました。多くの人は私が新しい家内に尻へ敷かれていゝと位思つたことでしょう。しかし事實はその正反対でありながら、實際は津矢子の妖しい倒錯的な魅力に取りつかれていたのである。私が本当かも知れませんが自分の愛していた美しい妻が自らの知らぬ間に他人に盗まれていた。としたらどうでしょう。それでも平気でいられる夫は果しているでしょうか、然し私はその憤りの心をますます直接ぶつつけてゆくような事はしませんでした。慌てなくとも私はゆつくりと手中の鼠を自分の好みの方によつて弄ぶ

と高い声が起りました。この辺は高台なので水圧が低い時は普通の日でもよく断水するのでございますが、きつと入っている中に熱いお湯になり日炊けた肌にしてみただけでございしやう爺やはびつくりして慌て、焚口の火を消し、ホースを井戸のポンプへつなぐとあせりました。

わたくしは羽織つていたケープを脱ぎすてると硝子戸をがらつと開け放つて、「お姉さん、あたしがうめて差し上げますわバケツをお出しになつて」と言い乍ら飛び込みました。

「いや、閉めて、いやよッ」お姉さんはこちら向きに湯舟の脇に立つていらつしやつたのですが、泣き出しそうに悲鳴を上げてさつと蹣跚込まれました。その慌てようといつたらこれが志津子姉さんかと疑うばかりの狼狽ぶりでございます。わたくしは殊更冷静を装つて

「早く、お姉さん、そのバケツをお出しになつて……」と催促いたしました。然しわたくしはもうその時、お姉さんの身体の秘密

のことをすつかり見てとつていました。お姉さんが洗場の隅にころがつていたバケツに手を伸ばさうとした時、閉め忘れた硝子戸の向うから、「うおつッ」という驚きの声がしたので顧つてみますと下男と爺やが立つて覗いているではありませんか。お姉さんの「キヤッ」という悲鳴でわたくしが慌て、硝子戸を閉めたのは、や／＼暫くしてからでございます。

その時、わたくしは太股をゴムがきつちりと締めつめたズロース一枚でございしましたが、自分の裸をそんな男たちに見られたということに不思議に嫌な気持はございませんでした。むしろ自分の身体を誇つてやりたいような気がしましたのもお恥しい話ですが事実なのでございます。しかし、お姉さんは口凝然と嫌んでいらつしやるばかりでした。手足は海水着の跡だけ残して真赤に日焼けしておられました。バケツをとろうとして前からお手を離されたその時の隠された部分の抜け出たような白さがわたくしの網膜に焼ついていつ迄も消え去りませんでした。

その晩、わたくしは志津子姉さんに呼ばれてお部屋へ参りました。そこは南向きの八帖の洋間で、窓近くヒマラヤシダーの青い茂りが迫つていました。お姉さまはピンクのガウンを召されたベッドのふちへ腰を下していられた。わたくしが入つてゆくなり

「和子さん、今日、わたしの身体すつりならになつたわね」そうおつしやるなり、つゝと立ち上つて扉の鍵をおかけになると、目の前の椅子に腰掛けるよう命じられるのでございます。わたくしは黙つておつしやるまゝに腰掛けますと、お姉さんは「今日は貴女はわたしにあんな恥しい目に合したのだから、そのお礼にうんといじめてやるわ」

とおつしやつて、わたしの背後へ廻られると絹のハンカチで目かくしをされました。余りきつくではございませんでしたしそれに布地のうすいものでございしますから、カーテンを透した様にうつすらと明るいとこだけ見えるのでございます。

「えい、わ、わたくし、本当に今日

はお姉さんにお気の毒な事をしたと思つて居りますの、姉さんのお気のすむまで、どんな事でもして頂戴」

なんという事で言つてしまつたのでございしよう。でもその時は、真実その様に相済まないと考えていたのでございます。又こんな慕つて居る姉さんのことですから、どんなひどい罰を加えられても本望だと思つていたのでございます。そしてこの夜がお姉さんをどんな秘密でも分ちあう身近な人にする第三の機会だつたのでございます。この日を境としてわたくしは責められる喜びと同時に、同性の肉体に与へてしまつてもこの場合はお姉さんに限つたわけでございますが、――

異常なばかりの興味を持つようになつたのでございます。表面ばかり飾り立てた教科書の生活から本当に一人前の女としての官能のうすきを教えられたのです。それが同性に苛められるということにより私の身体に目覚めたのはなんという宿命だつたでしょう。

ことが出来るのです。私は周到な企画を樹てました。先ず彼女の最も嫌がる冬木との古紙を暴き立て、それを夫の前で告白させることです。そして、少しでも拒むような事があれば、それを理由に肉体的な責めに持つてゆこう。更に私は彼女の前に公然と「号三号」を連れて来て、特に勝負な商売女との痴戯を見せつけて羞しめてやろう。

彼女の性質からして直接私に向つて嫉妬の炎を燃やすことはないだろうがそんな際、その場所から逃げ出してゆくといつた事は十分考えられるので、そんな時は柱に縛りつけて、無理矢理自分の夫が他の女と戯れる所を見させてやろう。それによつて彼女は私に与えた打撃が如何に罪深いものであるかを悟るだろう。

そう思い立つた私は、早速その翌日から実行に移つたのです。その日は夕方から激しい雨で雷鳴を伴い、窓ガラスには白いシブキが龍のように注いでいます。私は心中の思いを顔面の微笑にかくし乍ら、妻の津矢子を呼びつけました。日中は郊外の自宅で一日中

ブラ／＼して、時折指示を受けに掛つて来る電話に回答する位でしたから身体はいさ／＼も疲れていません。必要とあれば徹夜でも出来るのです。津矢子は新妻らしい初々しさで淑やかに椅子に腰を下しました。

「津矢子、冬木君から便りがある？」

「存じません」

彼女にとつては針を刺すような私の言葉に対して冷やかにそう答えてそっぽ向いてしまいました。その態度が殊更私の嗜虐心に油を注ぎました。

「そんな事はないだろう、お前の初恋の人だもの、きつと僕の留守に来ているんだろ。隠さず正直に言つたつてい／＼じゃないか」

「そんな事、わかりきつてゐる事じゃありませんか、妾は貴方の妻です」

「フン、その妻が僕の眼を盗んで何をしていたんだい、君はまだ僕をこまかそうとするんかい」

「その事だつたらもう言つて頂きたいありません、若しお疑ひでしたら、あなたのお好きなようになさつて下さいませ」

責めの川柳

瀬川 静子

女房の跨まであける猿轡
猿轡はめて子守泣いてる
生娘のおかげで下女は責めに逢い
(川柳柳柳より)

◎アルバム

「美しき縛しめ」

第二集ついて

各種多様の変つた趣向、姿態のものを印刷により安価にお手元へ届けたいと思つて三十二枚の代表的なものを取揃えました、これはきつとヴァラエティに富む点で第一集を凌ぐ作品揃いと自負します、追つて本誌上にその全貌を発表する予定です。



羞恥のヴェールを

ぬいで ②

南川 和子

★よつとこのように矢がらせて、見えな分は鏡台に映したりして、西洋カミソリで一心に剃つていらつしやるのでございます。

その表情のおかしかつたこと、痛む度に顔を硬直させ、ほつと吐息してはまた、一心にカミソリの刃を立て始めるのでございます。わたくしは、あの上品でおすまし屋さんの姉さんがとなにかいとわしい悪癖の裏面でも見せつけられたようで、そつと逃げるように裏庭伝いに家へ帰つてしまつたのでございましたが、あの黒髪にも増して漆黒な腋毛の繁みと、金毛をまき散らしたような生毛が二の腕一面に生え揃

ると、もう一度お風呂に入つてずつかり体を流し浄める習慣になつてしましたわたくしの家では、まだその時、お湯がわいておりませんでしたので、気の毒に思つたママ様が、「どうぞ、私共のお湯殿で……」と親切にすゝめて下さつたのです。

けれど、お姉さんが既に入浴していらつしやつたし、お姉さんは、その頃決してどなたとも御一緒にお入りにならなかつたのでございます。わたくしはママ様とはよく一緒に入浴させて頂いておりましたが志津子姉さんとはまだ一度も入つた事はございませんでした。もう十九におなりになつたんだしとあの時ちやつと見た腋の毛を思ひ出したり、又、別の所の事に想像を逞うしたりして少女ながら、はつとして思わす顔を蔽らめ乍ら、お湯殿の外で足踏みする様な恰好で待つていたのでございます。

その時、硝子戸一枚隔てた浴室から急に、「熱いわツ、熱いわよう、誰かうめて、早く誰かうめて、水が出ないわ」

の瓜実顔の白い頬は口惜しさにピリ／＼と痒痒し、胸は動悸を殊更押えるために心の煩悶を表すように波うつています。悩むのがい／＼のだ、苦しむがい／＼僕がこゝで手を下して君をなぐつたりしたら、それだけ君の心の負担をやわらげてやる事になるんだから――

心の中ではそんな惨酷な事を考えながら私はじつと彼女の表面に表れた反応を冷やかな眼つきで眺めていました「およし遊ばせ」

僕の手が／＼と伸びて彼女の襟首にかゝつた時初めて唇から声が洩れました

新年号發禁願末記

編 集 子

K通信第六号に於いて編集子は新年号發禁の弁について述べたが、最近その件につき検察庁の呼び出しを受けたのでその願末記を書いて見る気になった。以下編集子と係検事との問答を追うてゆこう。

検 奇譚クラブは貴方が編集していられるのですか？

編 そうです。

検 新年号は大分ヒドイところがありますね、貴方はどう思われますか？

編 ヒドイというのは刑法のワイセツだという意味ですか、私はこの程度であれば刑法の第七十五条には絶対に抵触しないという自信を持って編集したんです。

検 公開したことは認めるんですね、編 公然と売り捌いた事は認めます。しかし、ワイセツという点では全面的に否定します。

検 新年号以降も出していますか？

編 え、ずっと休みなく出しています。

検 私の方で社会的地位のある数人の方にこの本を見せたのですが、その答申書には皆ワイセツだとなつています。

編 どういう状況の下に意見を求められたのか知りませんが、法律に素人の人が単に社会的通念として考えるワイセツというのは意味が違ふと思います。

そんな事を云えば、この雑誌を支持してくれる人は私の方でもつと沢山挙げることが出来ます。一応の参考にはなつても、刑法に抵触するか否かということになれば問題は別じやないですか。

検 それはそうですが、私が見ても相当ワイセツな個所がありますよ。この一六二頁の経血を舐めるところなんかこの繪と共にワイセツですね。

編 経血を舐めることが、ワイセツで

すかね、確かに経血に唇をつけた、とありますが、それだけでワイセツとは思議ですね、性交の方法容態体位等について具体的且つ露骨に描写したというのがワイセツだと思いますが、

検 ワイセツは性交に關してばかりじやないですよ、この繪にしたつて、腰巻で陰部はかくされているが、この文章と繪と併せて見る時、人をして性欲を興奮させ羞恥嫌惡の情を催さしめるのに充分だとの見解をとります。指摘された個所でも特に此の部分が一番いけない。

編 この繪がいけないとすれば、もう繪は描けませんヨ、覗いているといつたつて、別にそれだけでワイセツになるわけではないでしょう。

検 それじゃ読みますよ——彼女のスカートの下には真白い肌のがぞいて、その奥にはつきりと女のシンボル黒いものが見えるのです。……中略……どうです？これでもワイセツと認められませんか。

編 大体この雑誌を編集する際にですね、最初から法規を逸脱して編集しよう

うというような気持は毛頭ありませんこの号にしても原稿を見られたらわかるように十二分に検討した上、更にゲラ刷りでも削除して、これなれば絶対大丈夫だとの確信をもつて発売したものですから、ワイセツ容疑を持たれること自体が不思議に思っている位なんです。

検 然し、青少年に対する影響とか、それに文化の頹廢ですね、そういった面も考えて貰わねばならない。元禄時代ですか、あゝいつた時代の再現は我々として充分戒心しなければいけませんよ、我々はそういった文化の頹廢を喰いとめるといつた大きな任務を持つてやっているんですから、貴方方にも協力して貰わんと困りますね。

編 青少年に対する影響といつたつて本誌の読者は殆ど中年以上ですし、假りに一部が青少年の眼に觸れたとしても悪影響ばかりと速断出来ないでしょう。これについては反証の準備があります。又一步譲つて或る程度悪影響があつたとしてもですね、直ちに刑法に觸れるといった性質のものでもないで

うといふような

る。私がこういつた被縛女体に興味を抱くに至つた最初の思出は、今より十六、七年前、私が確か小学校五六年の頃だつたと思う。

私の遠い親戚に三恵子と云う私と同年の娘があつた。幼い時からよく一緒に遊んだものだが、大柄で私よりも當時でも、ずっと總ての發育が良く、子供心にも一寸癪だつた。同じ齡だつたのに何故か私の事をお兄さんと呼んでいた。住居が近かつたので殆ど毎日一緒に宿題をしたり庭へ出て遊んだりした。何時もの様にハナレの私の部屋で上級学校への進學準備の勉強をしていた二人が或日、何かの原因で喧嘩を始めたことがあつた、口喧嘩の内はよかつたが、とうとう掴み合いになつた。彼女は身体も大きいし、その年代は女の方が發育がいゝらしく力も強かつた。私は負けるかも知れないと思つて真剣になつた。ついに私は組んずはぐれつの末彼女を部屋の片隅へ組み敷き馬乗りになつて、両手首を背中に束ねて片手にしつかり握り、両膝で胴を強く締めつけ、片手では髪の毛をつか

み、横顔を疊にぐいぐい押しつけた、「參つたか」

私は勝利者の態度で誇らしげに声を掛けた、ハハハ息を切らせ乍ら。彼女は横目で私を見上げ無言の儘、すきがあればと尚も抵抗の氣配をみせた、「降参、云わんと括るぞ。」

そう云つて私はハツとした。何か自分がかかれた様な氣がした。突然、得て知れない嬉しさが身内を駆け抜ける様に感じた、——そうだ縛つたら——



馬乗りになつて油断をしていた私はそのはすみでコロコロと疊の上に転げ落ちた。勢余つて机に二人の身体が当り上の電気スタンドが、縁側に落ちて大きな音を立て、電球が割れた。その物音で飛んで来た母に私はコッピドク叱られた。

スタンドの後始末をして二人で済ました後、彼女は私を見て、ニツコリした。私も笑い返そうとしたが、頬がピリツと痛い。

「マアこんなに傷が、イタイ？」彼女はその云つて頬を撫でてくれた。さつき争つている中にヒツカへしたもので

しい。然し私は無理に笑つて「ウ、ン、少しも……ミエちゃんこそ痛くないか？」

と云い乍ら彼女のフツクラした左頬を撫でてやつた。まだ赤く疊の目の痕が一杯についていた。彼女は自分の指の爪先に目をやつて呟くように言つた「今度する時はもつと爪を短く切つとクワネ」

彼女はまた私と争う積りがそんなことを言つた。然しそれから私は中学校へ彼女は女学校へと別れ別れになつて再び彼女と組打ちするような機会はなかつた。後になつてその時撫ぜた頬のふつくらした手触りが、もう少しで彼女を後手に縛れたのに……と思う残念さと共に、日が経つに反比例して強くなつて来た。幾度か、彼女が手も足も縛られて、私にカンニンしてと哀願している夢を見た。

彼女の父は大陸で戦死し、彼女は母の郷里の高知で二十才の歳に結婚したという。終戦後満州から引揚げてきてその事を聞いた時には一寸淋しく思つた。今は交通さえもしていない。

しょう。街には競輪、パチンコ、西部劇、煙草と数え立てれば悪影響を及ぼしそうなものが沢山あります。それに文化の発展に貢献するといった件ですが、政治の貧困による結果をこちらへ向けられることは迷惑です。

大体権力で社会を指導しようというのは大それた考えではないですか。検 それほむつかしい問題です。然し大衆というのは、指導力によつて或程度はどんなものになるんです。その点こういう雑誌がはびこる事は面白いくないのです。まあ、警告を発するという意味があります。

編 警告ですつて？出版法も治安維持法もないのに警告とはげせませんね、私達も編集には十分注意しているんですから、警告の意味でそうワイセツで検 検されるも大変困るんです。だから現在はこの辺でいいだろう、という線から更に用心して削っている仕末です。検 検はないかわりに、発売されてから挙げてやれじゃ、やりにくくつて困ります。何れにしても法律に觸れてまで一部の読者に迎合しようつて気持は少

しありません。只、法規で許された限界迄は一杯ゆこうというのは、これは人情ですよ、それが偶然当局の忌避に觸れたという訳ですが、よく読んで頂ければわかつて貰えると思うんです。検 その限界が中々むつかしい。私なんか学校を出てからずっとこんな仕事をしているので、セックスについては極めて淡白でね、こういう本を読んで一向に興味が湧かない。

編 あなたがノーマルであるからという事もあなたが云えませんかでしょう。そういう機会がなければね、然し人には大なり小なりそういう傾向があるものですから、読んで見られたら興味を持たれるようになるでしょう。

検 このように縛られたり縛つたりして興味を持つていうのは私達見れば面白いですね、ここに書いてあるように奥さん縛るつて本当にやるんですか？

編 前戯としては大いにやるでしょうね、私も女を縛る事は大好きですから単純なる方法からより複雑な方法を選ぶといった気持はよくわかるのです

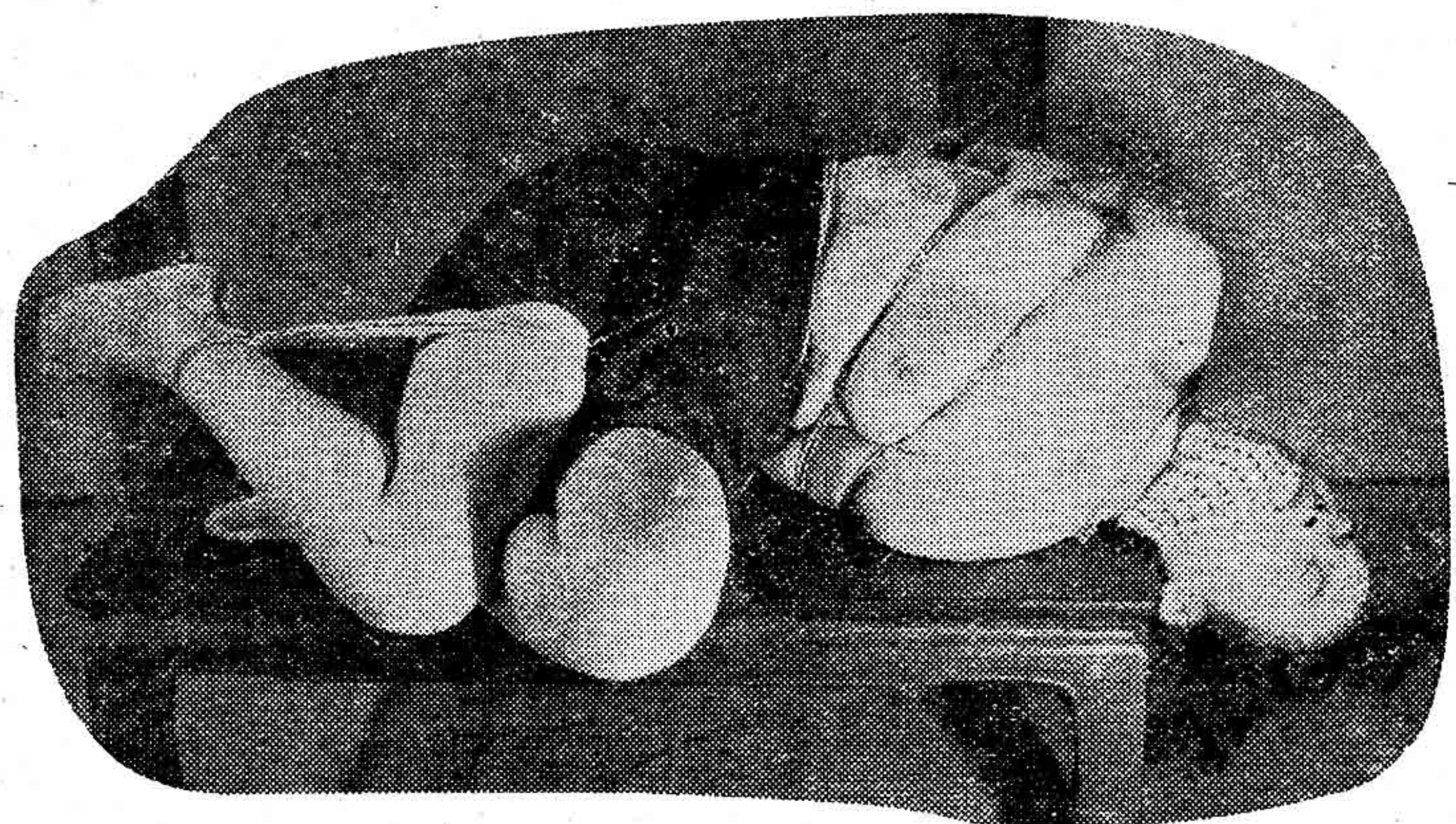
検 アブノーマルと犯罪の関係の記事は少しも載っていないようですね。

編 さあ、そこが我々の提唱している犯罪を犯すような本当の変質者と所謂合意の上で前戯的に楽しむアブノーマルプレイと区別しているところなんです。アブノーマルイコール犯罪という考えは古いんです。

検 我々もこういった方面も研究して見る必要があるようですね。

編 この方面の研究はまだまだ未開拓ですが、いろいろコレクションもありますから、参考のためにお見せしましょう、本誌の最近号迄のも一応見て頂きましょう。

検 とにかく、この一六一頁の箇所はワイセツであるという検察庁の意見に変わりはありませんが、更に研究検討してみましよう。



悦虐のポーズ

川端多奈子嬢

思出の女

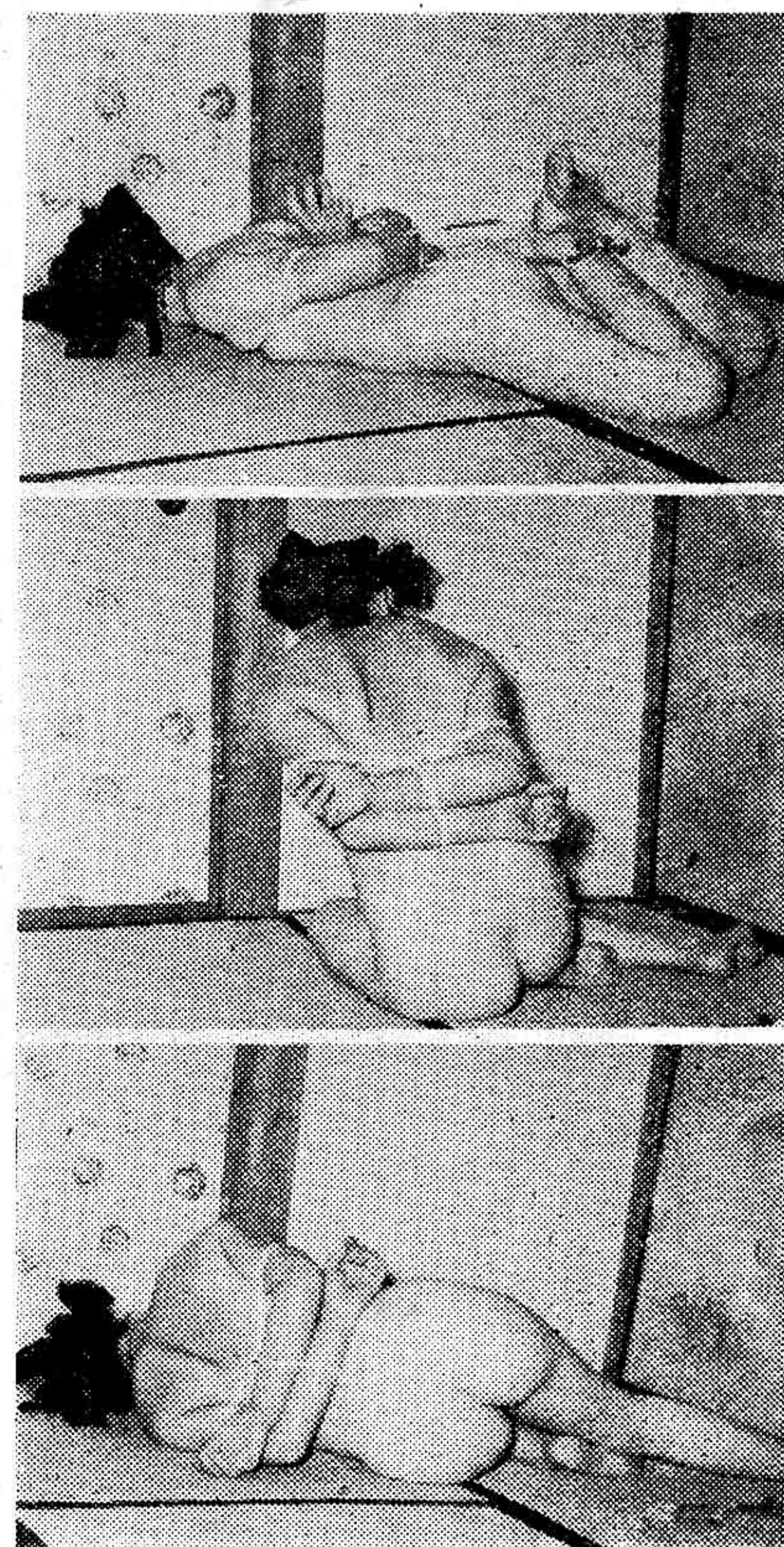
正水拓司

人には多かれ少かれ、自分の胸の奥深く秘めて、折に觸れ想い起し、當時を懐しむ思出があるものだ。しかし手柄にも依るが手柄話や功績の類ならともかく、そう無闇に人には話せぬものである、多少でも人に聞かれて羞恥を感ずる事柄である、たとえそれが自

分の姿を直接みせずに文章だけの発表にしる、この様な私生活の秘密に関する事柄を公表する云うことは、仲々の勇気がいるものである。この意味で私は奇巧の誌上を飾る数篇の手記告白文を毎月敬意の眼を以て愛読していると同時に近頃に至つて、今迄自身が深

い罪感に捉われて、その一端をすら洩すことを極度に恐れて来た事実が非常に意気地のない様に思えてやり切れなくなつて来た。かと云つて別に取立立て、云うべき変つた経験も持つてゐるわけではないのであるが、諸氏に哲発されて茲に編集部の方に読んで戴き度く、と云うよりも診断して戴き度く、訳の分らぬ拙文を書き綴つてみた。

私は自身で自分が、マゾであるのかサドに属するものか、見当もつかない



高手小手三態

モデル

木田雅子嬢

時にはそのどちらでも無くノーマルな性質ではないか、とも思う事もある。然し唯好奇心のみに依つて、この種のものに興味を持つてゐるものとしたらヌード写真や煽情的なストリップ肢体の数々よりも、一人の被縛女性の姿にこよなき憧憬をもち、激しい官能の刺激を受けるのはどうした訳だろうか、電車の中で身近に見る若い女の容貌やスタイルよりも、手首の腕時計、又は腕に掛けたハンドバックの吊手等に依る肌のクボミに、堪らない程の魅力を感じるはどうした事だろうか。

と云つて、サド、マゾ小説にあるように女体を笞で打つたり、針で突いたり、咽喉を締め上げたりして、楽しめそうには思われない。まして自分がそんな目に会う……と考えただけでゾツとする。

そのくせ、若い女の、縄の喰い込んだ肌、打ちひしがれた様な縛られた風情、縄から脱れようと必死になつて腕を躍動的な肉体、そう云うものを幻想してはひそかに血を沸かせ、獨身者の悲しき燃上つた炎の所置に困るのであ

会友通信



本、三千日貴輪拝受致しましたが、小生、何分にも朝遅くとも勤めが許されている為、貴輪が朝早く到着し、半分眠り乍ら見て、一旦取いこみ、今十一時頃になつて改めて拝見し、貴兄よりのものと知つて一驚した次第です、貴稿が如何にも計画的、且整然とし、文体から云つても確かに原稿刷れた書き振りで、よもや一人の作ではあるまい、多数の投稿から編集部で分類して、總括し連載して居るものと思ひました、然るに此処に一つの証拠として、貴筆の文面(会友通信にては大変暇取るので直接された旨付記があります)を拝読して笑は、或意味では心強く思ひました。大体、マゾヒズムに関する諸研究は近時特に等閑に付されている餘があります、私等も其の一種の真空状態を打破して、一つの途を開く為、極言すれば捨身の戦法で投稿して居る次第です、小生とても一ヶ

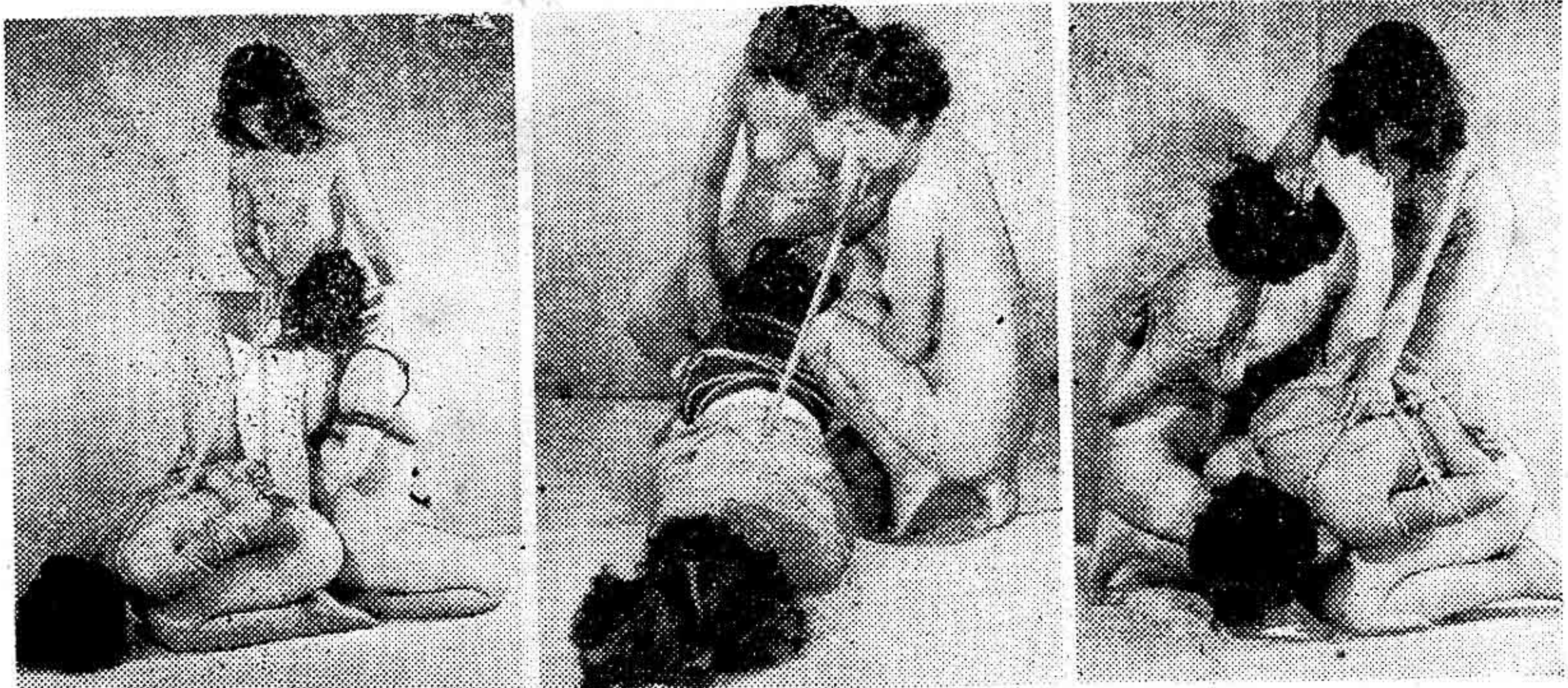
の会友を預る身、社会上の不遇は後に至つて現れる事を覚悟して居りますし、仏文専攻ですから、文筆上の諸々の計画も或は阻害を来すのではないかと思われる兆が既に現われて居ります。併し私の考えの一端はKK通信第十四号中に申述べました通り(詳説は止めますが)この方向への研究や蒐集は誰か犠牲にならなければならぬのです。私は又、単に趣味的にでなく、もつとも組織的に論じ、且説明せねばならぬものと思つて居ます、貴説の通り、天泥盛英——勿論お氣付と思ひますが之は Anadio Moliere の当字です。——の筆名は小生です。(猶「森本愛造」は編集部にて付けたペンネーム)右の筆名によつて今迄投稿して来た事は、小生の投げた捨石と思ひます、世の中の多くの変態性慾保持者が、其の性向を極度に稀少なものと思ひ、恥かしさと、社会上の環境に

対する顧慮から、自然性向を内攻せしめ、又は黙殺してしまひ、遂にあたら一生を性的不満の連続によつて終つて居る事を考え、それ等の人々の最もよき恋人として、——或る意味では娼婦として——発刊されて居る奇譚クラブの効用を私は100%利用して呼掛ける事が必要と思つたからに他なりません。勿論、私は散文が非常に下手で読みづらいつと思うのですが、効果に於ては西歐風マゾヒズム、フェティシズムを移入し得た兆候が伺われますので一安心致して居ります。今後、私も「Das Grausame Weib」の翻譯に註記を付して、本邦マゾヒズム研究の二石たらんと希んで居ります。私が貴兄と御拝肩致し度きは勿論其の目的の為であります。又、性向を他に知らしめないう事は何論必要であります、私等は一寸偽悪趣味の傾向もあり、進んで自己を発表し、以て他をうながすのが一番よいと思ひ実行して居ります(因に、曙書房箕田氏は大変に誠実な方らしく思われ、小生等今迄一度も迷惑をうけた事はありません、念の為申

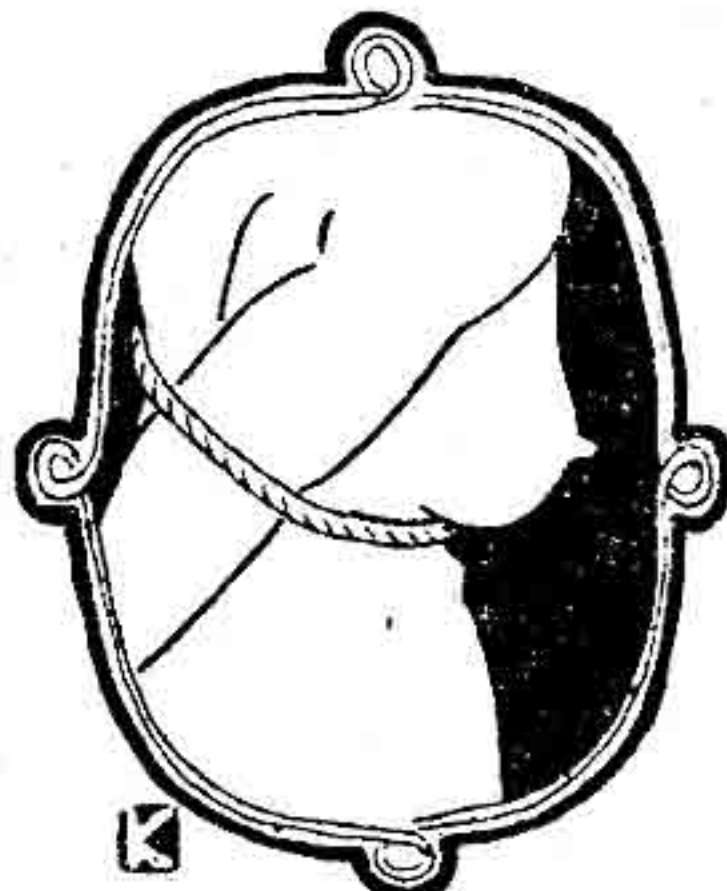
添えます)何卒局留にても結構です、東京なら東京中央局等なら判りません或は御友人経由にても結構です、奇巧の持つ由緒正しい財宝の一つである貴方と連絡の取れない事は大変に残念な事と存じます。本文は公開する為、私も流石に住所本名は書き得ませんが、一六〇一号会員証を保持し、編集部には勿論住所氏名記載してあります故、何卒宣敷く御手配の程を他の同好者と共に希望致して居ります(天泥盛英)

此の世にサディストの女の方があつたらどんなにか、楽しいことでしょうか自分の飽満した苦悩の世界から肉体的な責めと精神的な残虐とでこの境地より脱却してくれるサディストの女の方があつたら自分は恍惚としてその女の方の御足に接吻し其の方の惨酷なる賜り者となることを興奮と感激とが誓うことでしょうか。澁み腐つた深淵に呻吟するマゾの自分サディストの女の方と文通を切望します。

「函館二六一九号」



伊呂波仁補遺抄



(四頁上段三行目) : はかわらけ(同頁上段五行目) 見せて(同頁上段六行目) そこへ顔を押しつけて(同上) 頬ずりをしたり舐めたりして(二〇頁中段三行目) 象徴は(同上七行目) 象徴(同上三行目) 射精しました。(同上四行目) 精液は真直に一米半(同頁下段一行目) 男根が成長する(二〇七頁下段最後の行) だから今日は許してというのを私は許しませんでした。(二二頁下段一七行目) 乳房をまさぐり、折り重なつて(二三四頁下段二行目)

女が女を責める

一女対二、女対一女、

彼女がそう云つた瞬間、物凄く奔流が口の中へ流れ込んで来た。温いとも冷いとも、どんな味だとも感じる余裕はなかつた。滯してはならないと云うような気持だけが支配的だつた。どれだけ飲んだか分らないが、とに角飲む事だけは出来た。(二三頁上段終りから五行目) 陰門(二二七頁中段三行目) 最も鋭敏な個所に(同上十行目) 適当に椅子を退いて前にのり出し、ゆつくりと右腕の羽根をアリスへと伸ばしました。ハツとした彼女は魂切様な悲鳴を上げて手を屈かさいとして、無益なことなのですが、お尻をビツタリ柱に押しつけました。けれど、そうした必死の跳きもヴィナスの丘も前面に押し出すに役立つばかりで、前より一層羽根の攻撃に対して開けられたのでした。慎重に呼吸を計つてソツと羽根の先をアリスの身体の下部にもつてゆきました。そして柔かく軽く微妙な動きを以て戯れはじめました。アリスの顔は私の動きを監視するため乳房の方に懸つていたのですが、羽根が身体に觸れますとその頭は苦悩に堪えら

れないように後ろに投げ出され、張り裂ける様な悲鳴を上げて全身を荒々して振じゆがめました。柱に強く縛しめられたまゝ、痒痒と捻転の激動を繰り返えし、のた打ち、身悶え、跳き、狂気の様に細目を引き、悲鳴を上げ、祈り、ろ列も怪しい嬌声を上げるのでした。狂人のように空ろに見開かれた眼やビクビク震える唇、騒ぐ乳房をのせて波打つ胸——凡ては彼女が受けている心身両様の苦悩を物語るものでした。操りに最も鋭敏な反応を示すと覺しい個所に細心の眼を注いでは羽根をそれ等の超性感地帯に陰核だけは避けて——此処に触れるとアリスは逐情しうに違ひないと思つたのです——(同上四行目) 丁度羽根でピリピリといら立つ内部を刺激しようとした時です(二二八頁中段終りから三行目) 陰部の(二二九頁中段一六行目) 私はシゲシゲと哀心からの讚美をこめてその部分を鑑賞いたしますと、両手をお腹の上にのせて静かに撫でさすり始めました突如彼は金切声を張り上げました。

「くすぐり責め」二態

速見保

先頃、帝都の浅草某劇場で見たパール・レスク・シヨウ「艶説あぶな繪美女」の中で一寸面白い「くすぐり責め」の場面があった。筋は浮世繪師葛飾北斎が俗繪に飽いてモデル女笠森おせん（白河千鶴）の苦悶美を描くという寸法なのであるが之が責め繪をつくりの姿態なので、その方面にも少なからず興味を感じた。薄い腰布一枚の裸女が柱に縛られて首うなだれている姿は全く観念に徹した女体美の粋を發揮したもので然も抜けるような白い肌に緋の扱帯を這わせ、腰に水色の二布をからませたあたり、その彩色の妙は責めの零囲氣に一層の美感を添えたものである。その責め姿のおせんに北斎が悦慮の昂奮に燃えながら繪筆を執つて、乳房から首筋、さらに露わな大腿のあたりまでくすぐり廻すのだ、堪えられない苦しさに微かに身をよじらせて苦悶す

る悩ましい美しさに観客は思わず魅了されずには居られない。僅か数分間の舞台であつたが、さながら凄艶な責めの浮世繪でも見る思いがした。一月頃劇場で見たパール・レスク・シヨウの中でも「くすぐり責め」の場面が取り上げられて注目を惹いた。即ち「乳房は狙われている」の若衆捕物帖のコントで若衆姿の女主人公（白河千鶴）が悪玉のため密室の中で「くすぐり責め」遇わされるのだが、この方は前と違つて立つたまゝ柱に後ろ手に縛られて、一房のくもしで胸元や首筋或はのど元等を撫で廻される。最後にはくもしを抛つて直接指を触れる所まで進んで行くのだが肝腎の被虐者に反応力が弱いのので対分物足りない感じを免れなかつた。責めの趣向にはいろいろあるが実際に見ていて一番艶治なのはなんといつても擦り責めに限ると思う。

三態責めの盤基

モデル 雲井久子嬢

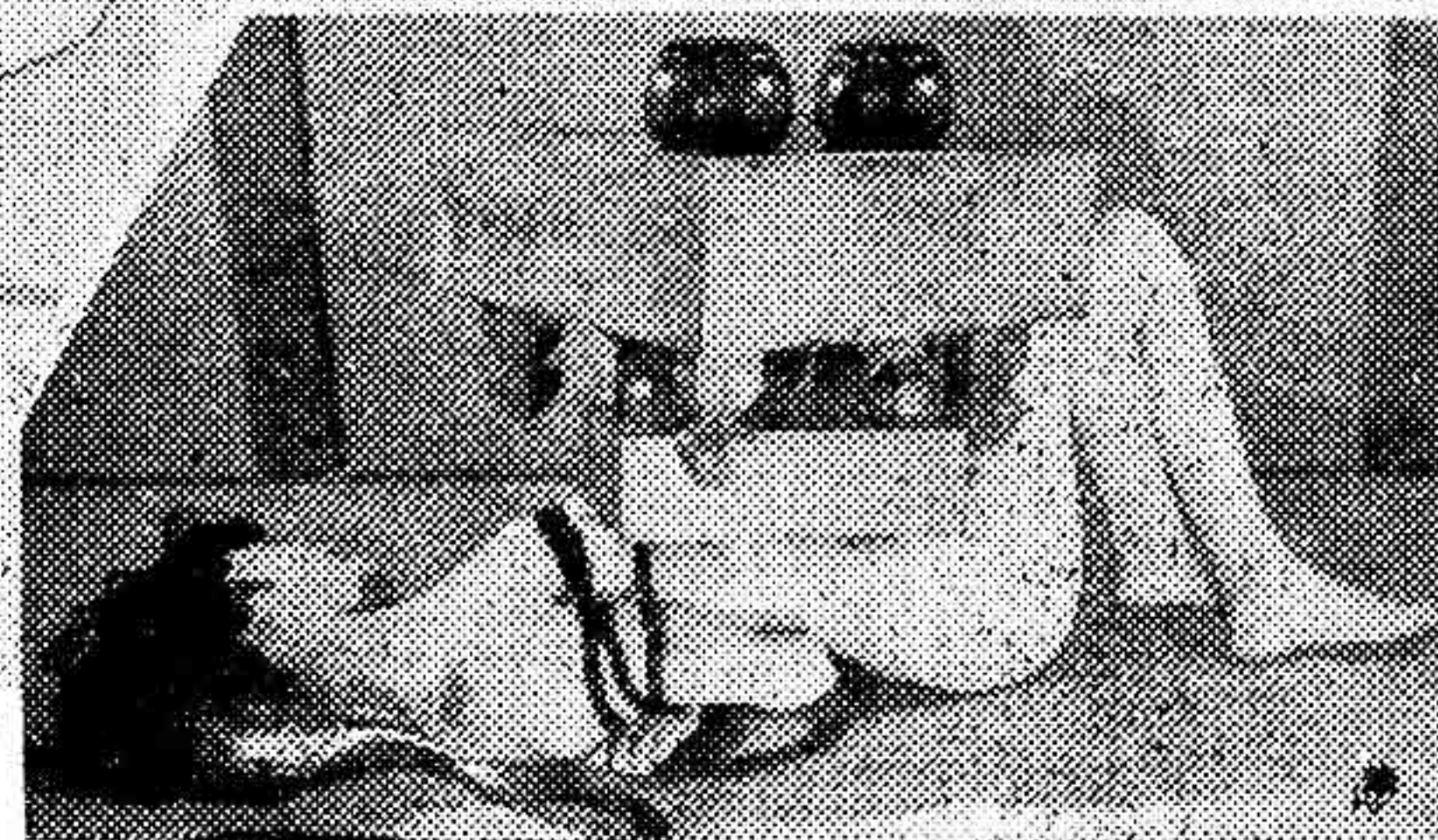
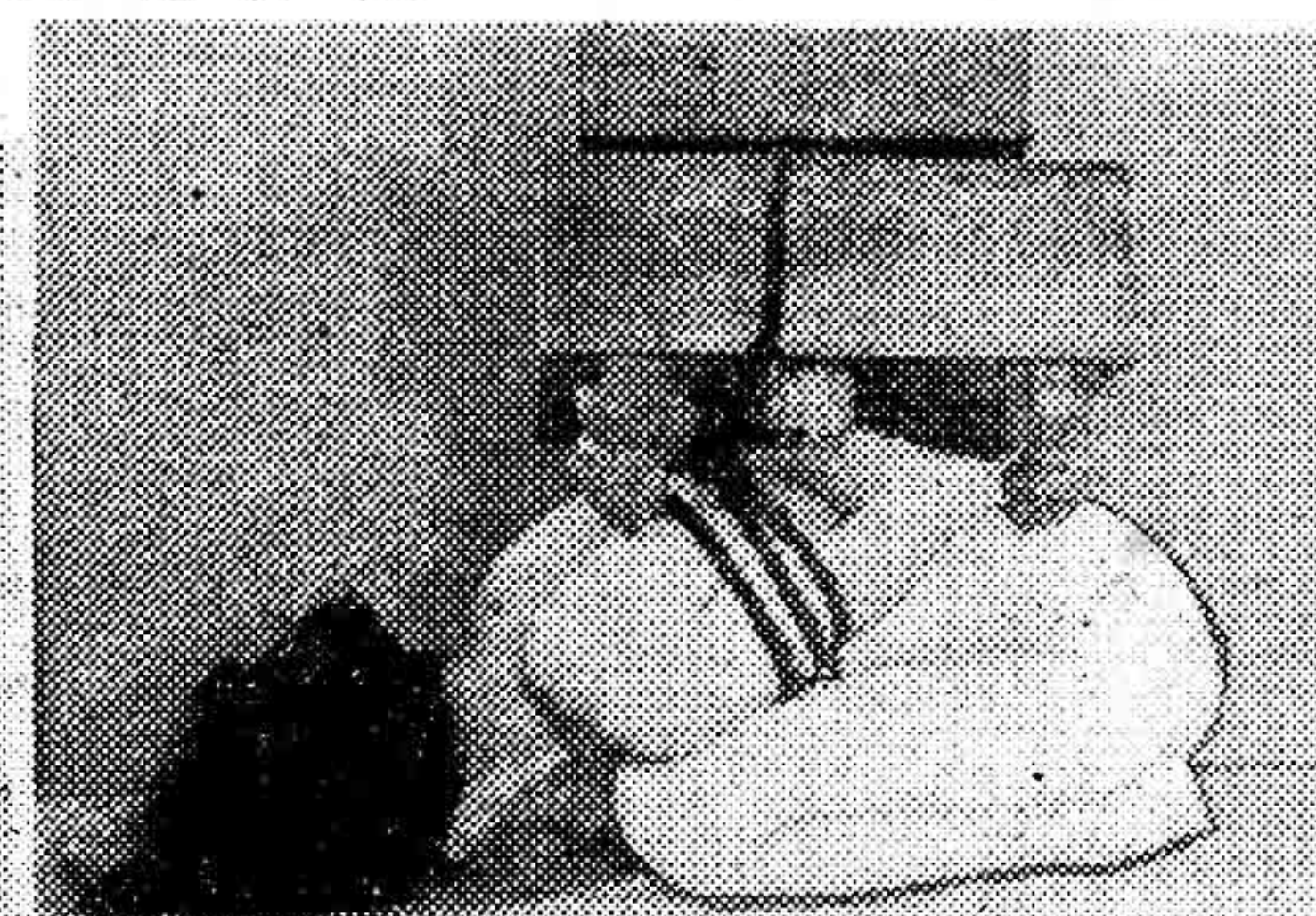
雑報

○特別会員の方で変つたコレクションの交換を希望される方は編集部気付辻村隆宛へ御照会下さいれば折返し同氏より詳細御返事差し上げるそうです。

○その際は交換可能の大体の目録並に御希望される品を記入下さいとのこと。

告白と手記を募る

愛読者の声を最も如実に誌上に具現して参りました本誌は今後更に毎号の



全誌面に諸氏の御寄稿を盛り上げてゆきたいと思ひますので、どんな些細なつまらないと思はれることでも、奮てドシドシお寄せ下さいますようお願いいたします。

本日御誌十一月号を拝見しました、多く発売されている雑誌の中にこんな珍らしい雑誌があるとは今日迄気がつきませんでした。口繪の責繪より女性の切腹図繪には大變興味をおぼえました、何という珍しい繪でしょう、只この繪について解せつがたいないのが残念でした。この繪に興味をおぼえたのは、私一人でしょうか、まだ他にこの繪を見てひそかにたのしんでられる私と同じような女の讀者が多いられることではないかと想像しています。書いてある記事は大変むづかしいですが今月から讀者になろうと思つています、私のような女がこうしたことを書くのは大變むづかしいですがこの後も沢山美しい女の切腹の繪をかいて下さい。お願いします。来月号はどんな繪がでるか楽しみにしています。またお便りをします大變失礼致しました。かしこ

女の愛讀者より

は、そのようなシーンの実現を、一生の秘願とするものであります。サディズムの真髄は、肉体的苦痛よりも精神的苦痛を与える所にあるといわれますが、たしかにそれに近いありせん。女性にとつて、最大の苦痛は、云々迄もなく性的凌辱であります、女としての誇りも羞恥心も根こそぎにしようような浅ましい淫らなポーズをとらされたり、性感帯を巧みに刺激されて、羞恥と快感に悶え狂う秘戯図は、想像しただけでも身内が燃え立つようです女であれば、嗜虐の快感は一層唆られる訳ですはじめは、羞恥に身悶えていた犠牲者がついに官能の前に屈伏して、次第に一匹の雌獣と化してゆく、——という過程を想像するのも一興です。サディズムそれは偉大なる芸術であります、先人マルキサドに倣つて、しかも一層洗練された方法によつて、この道の秘奥を、極めてゆこうではありませんか、同好の士の御教示をお願いします。

(横浜・一五七九)

胸とどろかせて待ちに待つ

た十一月号を手にして早速フオトセクションの頁をめくり男性被縛写真を見た、今迄に一度は載せて下さると思つていた事が実現したのですが少し期待がはずれてしまいました、もう二、三枚載せていただきたかつた、写真を見て横向きはやはり胸からこの腕に縄が喰い込んでいたらばもつと素晴らしいと感じますが、如何でしょうか。又後向きは縄が少し太く感じます、横向きの両足を縛つてある縄位できりきりと肌に喰ひませたらばと思います、とにかく初めての男性被縛写真真摯しく思いますこれから毎月二、三枚は載せていただきます。

女が女を責める(一)

一女対一女

モデル 杉 芙美嬢
坂口利子嬢



私も岐阜のHM兄、名古屋加藤氏、横浜土山氏と同じ傾向と思います。やはり郷土一氏の作品が好きです、来月号のMSバンドを期待して居ります。成可く図解及び繪を多く載せて下さい。KK通信二四号の納家生の自縛の方法を見ましたが私も自縛を研究をして居りますので私の方法を別紙に書いて見ました。女の縛られた写真及び画よりヒントを得て男性に直して書いて見るのが一番楽しみとして居ります、東京に同性に縛られたり責められる同様の人がおいででしたらばお便りがいただきたいと思います。(東京一九八四)

—〇—

小生、身長五尺二寸、体重十三貫、年令廿八才の小柄な男です。妻もあり愛しているのですが、どうも正常の愛の交換ではしびれる程の満足は得られないのです。それがたまたま八月頃本屋で奇巧のページをめくると、全裸にされた女が、縛り上げられ、ささづつ囁まれて身もだえしている写真に目が止り全身の血が逆流する様なショックを覚えました。実に私の体内で

くすぶっていたものは之なのでした。それ以来は古本、新本の区別なく出来得る限りの奇巧を買いあさりました。写真集も数編買い求め、何れも最近次々と入手致しました。自由を奪われ、責められ、もたえる女の肉体、まあ何と云う身も心もとろかす様な美しさでしょう。私は妻にも之を試みて見ようとしたが、妻は私程の興味を示しません。私は川端多奈子嬢の様なパートナーが欲しいのです。私には妻があり、従つて愛の恋の云々問題には今更興味はありません。家庭の幸福もみだそうとは思いません。唯時々文通し人知れず何処かで落ち合つて、純粋で強烈な吾々獨特の肉体の饗宴に耽り度いのです。済めばさりとてお別れし、又お会いする。こんな交際がし度いのです。どなたでも結構です。同好の女性の方文通下さい。

編集部気付 神戸市 竹内亮一

—〇—

沼正三氏へ、原稿と同封にて御申越の件すべて諒承しました。第六十四項の附記は、御指摘の雑誌発売後読者有

志より注意を受け、その都度各投稿者に警告し、中にはその出典の明示或は前掲載分は別の筆名であつたとの辨明を受けましたが、結局すべて編集者のミスでありますので十二分に検討の上過誤なきよう致したいと思つております。但し数多い中にも見落しもあるかも知れませんが今後そういった個所でございましたら、何卒御指摘の労を賜るようお願い致します。(編集部)

猿ぐつわをする女

鳴山能平画

縄や猿ぐつわは必ずしも女が苛められ束縛される道具とばかりは限らない。彼女たち自身が縄によつて或は二筋の手拭によつて、そこに甘美な幻想の世界を描くことが出来る。そしてそれは精神的にも肉体的にも彼女にとつて安全且つ不害なものである事が多い。



磔

一、一女
二、三女

モデル

村田那美子嬢
坂口 利子嬢
杉 芙美子嬢

自虐淫楽の手段

切腹の代用としての注射

萩 河 太郎 (静岡)



貴誌によりこの日本にも私達と同好の方々が沢山いられる事を知り只々感激で胸が一杯です。それは「切腹」から受ける幻想の世界です。私は少年の頃から女性の自害に最も悲痛な興奮を覚え、特に女性の切腹はその極致であると思います。本誌では橋芳子嬢、愛川晃子嬢等が読者通信に書いていられるのを嬉しく拝見いたしております。次に信太蓉子嬢、羽村京子嬢へ私の自虐の手段をお知らせしたいと思います。

それは切腹による苦痛の喜びを最も身近く体験出来る方法として腹部左脇腹への注射です。私は殆どビタミンを使用しますが、ホルモンとかその他の注射液は針の跡が固くなつてしこりがとれませんからビタミンが一番いいと思います。まず腹部の上部と下部を晒本綿で緊縛し、筋肉用の太目の注射針

の切りそがれたようになつて居る尖端をアツツリと突き差します。次に徐々にビタミン液を注入するのですが、最初は手先がふるえ、恰も割腹しているような気持ちになります。

若し注射に慣れない方ならば腹部は縛らないで、その部分の皮膚をやわらかく揉んで軽くつまみ、やゝ斜めに一と思いに一センチ位突き刺します

この方法でしたら脂肪層のみで二センチは十分です。切腹と同じ事と思いますが、表皮の一ミリ位の中が痛さを感じそれより深く、やややわと突き入っても抵抗も痛さも感じなく、むしろ自分の肉体へ針が突き入れられるという快いうずきえ感じられます。又事実、自身で注射するにしても腹部は痛さが輕微で手の位置から言つてもこれ程注射のし易い所は他にないようです。尚、女性の切腹の場合、腹部へ直接

よりも極くうす手の晒、又は、手ざわりのよいブロード地、人絹等をきつちり一重、ふくよかな腹部へ固く締め、乳房も半ば緊縛されると細目の責めと同じ効果を併せ得られる、マゾ的快感を得られるだろうと思います。切腹に興味を持たれる方は一度試みられたらいいと思います。

